

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470400132
法人名	有限会社 花しょうぶ苑
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑
所在地 (電話番号)	亀山市本町1丁目2番12号 (電話) 0595-84-2215
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 24 日(水)

【情報提供票より】 (H19年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤 11人, 非常勤 8人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 150,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 700 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(10 月 5 日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	86 歳	最低 80 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おざき内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は開設して4年である。玄関前でともしっかりした黒犬の“弁慶”が勢いよく迎えてくれて、十分に家族の一員としての役割を果たしている。運営者は地元出身で地元の人との関わりも深く、地域に何かを還元したいとの思いから立ち上げた事業所である。管理者始め全職員が明るく、利用者と一緒に日々楽しく生活している。また、利用者から教わることもしながら、双方の信頼関係を築いている。改善点があると即座に全員でその課題を共有し、早くに見直しをして年々質の向上が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で、主な改善課題は特になし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全職員で内容を共有し、評価に対してすぐ見直しをしている。常に前向きに取り組んでいる姿勢がある。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に一度の開催が必要であるため、議題や参加者の調整にはご苦労されると思うが、是非とも定期的な開催をして事業所の質の更なる向上を図っていただきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご意見箱の設置もあり苦情担当窓口の担当者名の明示もある。行政の苦情・相談窓口の案内もある。また、運営推進会議の場でも話しているが、今までに苦情等の声はあがっていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民生委員からの声かけで地域の行事である地蔵盆への参加や大市(旧正月の1月)での出し物を見に行ったりしている。当地は旧「国鉄の町」でもありミニSL列車の展示も見学に行ったりしている。行き先で近所の人から声もかかり交流が図られている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念を言いやすいように要約して「和気あいあい」にしているが、これは「地域の中でも和気あいあい」を意味し、地域に浸透した内容になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング、毎月の会議等、日常的に話し合っている。また、職員の採用時にも理念について話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である地蔵盆、大市(旧正月になる1月末)での催しものに出向いたりしている。当地は旧「国鉄の町」でありミニSL列車の展示もある。出向いた先でも近所の方達の声かけがあり交流ができています。	○	近隣には小中高の学校があり交流も図られている。今後は自治会、老人会との交流も図りたいとの思いがある。是非実現してほしい。
つ					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目について全職員で話し合っている。最終的には管理者がまとめている。評価後の見直し点にはすぐに管理者・職員で共有し、改善できるところは即刻見直しに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、民生委員、自治会長、利用者および家族等の参加があり活発な話し合いが行われている。	○	運営推進会議は2ヶ月に一度の開催が必要であるため、議題や参加者の調整にご苦労されると思うが、是非とも定期的な開催をして事業所の質の向上を図っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定の更新代行や会議等で市の知り合いの担当者と会って相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や、苑だよりで利用者の表情や暮らしぶりを知らせている。県外等遠方の家族には電話やメールで近況を知らせている。金銭については、出納帳をつくり預かり金から支出し、家族の訪問時に確認とサイン等をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱が玄関に置かれており、事業所以外にも国保連、市の健康福祉部、広域連合の掲示もある。また、運営推進会議、家族会においても話しかけはしているが、今までに、苦情等の声はあがっていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員の異動等には、先輩職員と一緒に入り利用者が不安を生じないように配慮している。最近は職員の異動等もなく落ち着いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には可能な限り職員は交代で参加している。職員の負担を少なくする為、費用面の援助もしている。自主的に研修に参加する職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年の5月から「市地区地域密着型事業者懇談会」を立ち上げ地域の6グループの事業所間で交流を図り利用者の作品展示会などを共同で開催するなど取り組みを始めている。職員の交流や研修生の受け入れ等についても検討がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス 利用者が入居になる時は、なじみの職員である為大きな拒否もない。他には、家族と一緒に来訪されたりして、雰囲気に馴染めるよう職員から声をかけをしたりして、自然と馴染みの関係づくりをしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	頂き物の野菜など新聞紙を広げ一緒に整理作業をしながら、昔話の悲しい話、嬉しい話に泣き、大笑いする等、共に過ごす家族の関係になっている。		
う					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一例であるが誕生日には、嗜好等を聞きながら本人の希望にこたえるようにしている。例えば寿司のリクエストがあるとその日は外食するなどして喜ばれている。	○	利用者の一人ひとりの希望や意向が一層実現できるように、職員全員で話し合われ取り組んでいただく事に今後も大いに期待したい。
尾路子ばれている					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議や日々の関わりの中で利用者の変化や気づきを取り上げ、職員間で話し合い介護計画の作成に繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月計画の見直しをし、変化がなければ継続することを担当者会議で記録している。特変が生じた場合は家族にも相談し随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、家族ができない場合には、受診の支援や墓参りに一緒に行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医もいて受診支援もされている。また、協力医による随時の往診もあり利用者の健康管理がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアについては、家族等とも十分話し合い事業所全体で取り組もうとする気持ちでいる。	○	ターミナル を看ることがすべてではないが、他職種間で連携をとられ家族等が望む支援をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会話の端々に人生の先輩として尊敬しプライバシーを損ねることなく接していることが感じられる。話しかけは改まった言葉でなく自然体で、利用者と職員の信頼関係が構築されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気の良い日は玄関前で寛いだり、散歩や外出、買い物に出かける等して、その人のペース を乱さない暮らしをサポートしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
医					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じテーブルで食事をとっている。その日の状態により刻んだりして食べやすくしている。食事の準備には食材を洗う、皮をむく、後片付けをする等できる人ができることをされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後の1時半から入れるようになっている。利用者は毎日入浴されている。入浴を嫌がる方には職員がうまく話しかけ入浴に誘っている。	○	夜間入浴については、利用者から昼間に入り、夜はゆっくりしたいとの声がある為、実施はされていない。しかし今後は年に何回かの夜間入浴も選択肢の一つとして期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の得意な方には雑巾づくりを、習字の得意な方には事業所の理念を筆書きしていただくなどして、それぞれの得意を活かす場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出、外食、買い物等に随時出かけるなど、できるだけ中に閉じこもらないようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	中玄関は外出の気配が分かるように左右がガラス窓になっている。利用者が外出されると職員もさりげなく一緒に出て周辺を歩き戻ってくる等して本人に不満が残らないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回10月に消防署から併設のデイサービスと合同で避難訓練(通報、避難、消火訓練)を受けている。また、運営推進会議の場でも地域の参加者に協力をお願いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3度の食事を手作りしている。近所から季節の野菜の頂き物があると一緒に調理したりしている。食材も幾種類か使うようにして栄養面の配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りにはプランターに季節の花が植えられていて、迎える人を温かくしている。リビングは天窓から射し込む日差しが、とても明るく共用部分を居心地よい空間としている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、整理ダンス、テレビ等、それぞれの利用者が思い思いの品をもちこみ穏やかに過ごされている。		